



あらい ひとし
新井 均

子ども・教師のための「学校プール」
安心安全をつくる「自治会活動」

動画で一般質問を
ご覧いただけます



「民営プール活用」市の見解は

答弁 民営プール活用等について研究に取り組む

問 学校プールの水流出事故等の際、一部の教職員に責任を負わせるのは好ましくない。複層的チェック体制・給水停止システム等を活用することが事故防止・教師の働き方改革を生む。市の考えは。

答 校内における複層的なチェック体制の構築に向けて各校を支援し、組織として学校プールの管理を適切に行うための環境整備に努める。

問 来年度から一部の小中学校が民営プールを活用し水泳指導を行う。できる限り民営プールを活用することが、児童生徒や教師にとって優位性がある则认为るが市の見解は。

答 他校における民営プール活用等についての研究に取り組んでいきたいと考える。

自治会の活性化について

問 地域をより良くするため、区長を中心として地域の問題を解決する自治会は欠かせない。しかし近年、自治会の加入率が低下している。もはや自治会独自の取り組みでは自治会離れを食い止めるのが難しいと考えるが市の見解は。

答 地域コミュニティ活性化の必要性等について周知、啓発するとともに必要な施策を展開する。



かとう だいすけ
加藤 大輔

道路交通振動について

動画で一般質問を
ご覧いただけます



道路交通振動の把握は

答弁 随時、現地確認、5年ごとに調査を実施

問 道路交通振動に対して、どのような対策を実施してきたのか。今後の取り組みは。

答 現地確認の後、部分的な修繕で、軽微に対応できるものは、適宜、舗装修繕工事を行い、道路振動の対策を実施。また、平成24年度から幹線市道の路面状況の確認を行い、これを基に道路舗装の長寿命化を図るための個別施設計画を策定し、道路事情の変化に合わせて、舗装修繕工事の優先順位を付け、順次、更新工事を実施している。今後は、調査結果を基に、限りある財源の中、国の補助金などを有効的に活用しながら、優先順位等も考慮した上で、適切な維持管理に努めていく。

「こども家庭センター」について

問 令和6年4月1日に「こども家庭センター」が設置されたが、これまでの設置効果は。

答 子育て家庭に対して、児童福祉と母子保健がより密に連携した丁寧な支援ができている。妊娠早期から出産、子育てへ移行する中で、切れ目なく包括的な関わりを持つことで、子育ての不安解消に大きな効果があり、児童虐待の未然防止にもつながると考えている。



出産・子育てについて、気軽に相談できます